

ダンゴ釣り研修会

かつてコイ釣りといえば螺旋にエサダンゴをつけたブッコミ釣りを指したものだ。私たち淡水研の会員もタニシエサを使うようになる以前(平成10年ごろまで)はほとんどがこの釣り方だった。アメリカナマズがこれほど殖えてしまった今、そしてアタルまでほとんどエサ交換が不要というタニシエサの魔力に取り憑かれてしまった今、かつてのダンゴでの釣りを忘れないようにしようと今回研修会を開催した。

平成24年11月17日(土)、常陸利根川・高浜の台船上手に有志12名が集まり、黒川顧問の指導で研修会が始まった。



【黒川顧問(中央背中)を講師に研修会が始まった。】

「ダンゴエサの作り方・つけ方」手順(黒川式)

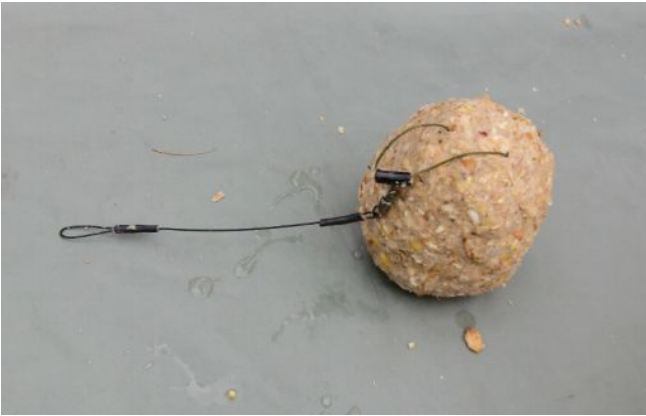
- (1) 鯉夢想[3]+鯉パワー[1]+水[1] をバケツに入れて混ぜ合わせる。(これが寄せエサ、パサパサしている感じ)・・・この比率で周年使っている(黒川)
- (2) 2本のハリのそれぞれにイモヨウカンやコーンなどのクワセエサをつける。 →→→



- (3) 寿司を握る手つきで結構ギュッとクワセエサの周りにそれぞれヨセエサをタマゴ大(Sサイズ)に握りつける。



(4) クワセエサが中に入っているヨセエサの玉(2個)を合わせてひとつのエサ玉にする。



以上で完成です。

またこの他に写真右のようにオモリに電気配線を留めるステップルを打ち込みダンゴエサの芯として使うとある程度の流速があっても溶けたエサが流されにくいという一石二鳥の効果があるとのことでした。

8:00頃から始まった研修会も

9:00には受講終了し、早速実釣開始



これだけサオが並ぶとコイさんもどのエサに食いついてよいかわからなかったのでしょうか。また大勢で談笑しあったりしていたせいでしょうか、アタリはありませんでしたが、唯ひとり下流の方で静かにサオを出していた加藤会員にアタリ。何とコイとヘラが1荷でかかってきました。

また、夜間にはいつもの懇親会が始まったものの、低気圧の通過により強風と大雨の中ひたすら飲み続けたのですが、テントが飛ばされそうになってきたために21:00散会となりました。お疲れ様でした。